

## 学位論文審査の要旨

|               |   | 要<br>旨   |
|---------------|---|--|
| 学位申請者         | 松尾 由美<br>【人間発達科学専攻 平成18年度生】   | <p>インターネット上で国際交流を行う実践的な取り組みはこれまでも行われているが、定量データ分析を用いた有効性の検討は乏しい。そこで、本研究は、インターネットを介した国際交流、特に、先行研究で多く行われてきた協力や自己開示を経験させる交流が偏見低減効果を持つのかを実証的に検討することを第一の目的とした。また、これまでの交流の多くは学校の授業など、外国人との交流を支持する枠組の中で行われてきた。このような枠組のない自然場面におけるインターネット上の交流でも、偏見低減が起こるのかを検討することを第二の目的とした。研究1では仮想空間で協力し合う交流、研究2では翻訳チャットで自己開示し合う交流の効果を実験室実験により検討した。また、自然場面での効果を検討するために、研究3では仮想空間での協力経験、研究4では自己開示の機会が多いSNSでの交流経験による偏見低減効果を縦断調査により検討した。その結果、インターネット上で外国人と協力を体験するよりも、自己開示し合う交流の方が偏見低減に有効であること、自然場面での交流よりも、実験室実験のように交流を支持する枠組のあるほうが偏見低減効果を持つことなどが示唆された。</p> <p>以上の研究を報告した論文などに対して、平成26年12月2日（火）、平成27年1月6日（火）および2月4日（水）の3回にわたって審査委員会が開かれた。審査の過程においては、論文や発表についていくつかの問題点が指摘されたが、申請者はそれに対する修正を適切に行った。2月4日に開かれた公開発表会では、申請者は、明瞭で優れた発表を行い、質問に対しても適確な回答を行った。審査委員会は、それぞれに労力のかかる研究が十分な達成度で行われていること、研究計画が丁寧に練られており創造的であること、論文における記述が論理的で十分な水準にあることなど、申請者の論文内容や学力などを高く評価し、論文審査、最終試験の結果を合格とした。お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科の学位、博士（人文科学）、Ph. D. in Psychologyにふさわしいものと判断した。</p> |
| 論文題目          | インターネットを活用した国際交流による偏見低減効果   |  |
| 審査委員          | (主査) 教授 坂元 章  |  |
|               | 教授 内藤 俊史  |  |
|               | 教授 大森 美香  |  |
|               | 准教授 上原 泉  |  |
|               | 教授 森山 新   |  |
| インターネット<br>公表 | <p>○ 学位論文の全文公表の可否（可・<b>否</b>）</p> <p>○ 「否」の場合の理由</p> <p style="margin-left: 20px;">ア. 当該論文に立体形状による表現を含む<br/>イ. 著作権や個人情報に係る制約がある<br/><b>ウ.</b> 出版刊行されている、もしくは予定されている<br/>エ. 学術ジャーナルへ掲載されている、もしくは予定されている<br/>オ. 特許の申請がある、もしくは予定されている</p> <p>※ 本学学位規則第24条第4項に基づく学位論文全文のインターネット公表について</p> |  |